

| | | | | | | | | | |
|------|----|---------|-----|---------------------------|----|------------|-------|------------|-------------|
| No.① | 分類 | 2-(2)-イ | 資料名 | みんなたいせつ 「ひとりじゃな いよ」 | 学年 | 1・2年 共通 | 関連領域例 | 特別活動(学級活動) | |
| | | | | | | | | 道徳科 | B-(7) 感謝 |

1 ねらい

- 困ったときや悩んだときは、周りの人に相談できることに気付くとともに、実践していこうとする態度を育てる。

2 趣旨

- 本資料は、子どもの権利条約が定める権利のうちの「守られる権利」に関連している。児童の家庭環境や特性によっては、人に頼ることを知らないまま育つ児童や、困っていることを主張しにくい児童もいる。どんなときでも、自分が幸せであるように周囲の人に頼ってよいことを知り、実践していこうとする態度を育成するために、困った状況とはどういう場面かを想像したり、周りの頼れる人は誰かを思い浮かべたりする学習活動にする。

3 配慮事項

- 学級内に配慮がいる家族形態の児童がいないかを把握しておく。
配慮が必要な児童がいる場合は、ワークシートの「そうだんできるひと」の欄を空白にし、タイトルを「あなたがおはなししたいとおもったひとをかきましょう。」に変えるなど、その児童がワークシートを見て「自分には○○はいない」という孤独な思いを抱かない工夫をする。(資料)
- 誰も相談できる人がいないと感じる児童に対しては、教員自身や、その児童を取り巻く人間関係を思い浮かべながら、誰かを提案するなどして、孤独な思いを強めないように配慮する。
- どのような家庭環境も肯定するように配慮する。
- 教員自身も、子どもの権利条約について理解を深めておく。
(参考：教えてユニセフ 子どもと先生の広場> 子どもの権利条約 子どもの権利条約について)
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/kenri/>
- 電話相談 (ひょうごっ子<いじめ・体罰・子ども安全>相談 24 時間ホットライン) 0120-0-78310 (通話料無料・携帯電話利用可) を紹介し、悩みを聞いてくれる窓口があることを知らせる。

4 展開例

| 学習内容 | 指導上の留意点 |
|--|---|
| 1 資料を読んで場面の状況をつかむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆっくりと、想像を膨らませることができるようにつつひとつのエピソードを範読する。 ・ 挿絵を掲示し、場面の状況を理解させる手助けとする。 |
| 自分にも似たようなことがあったか考えよう。 | |
| 2 自分にも似たような状況になって助けたことや助けられたことがないか話し合う。 ・ その時の気持ちを思い出したり、想像したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 助けた場合と助けってもらった場合に分けて整理して板書する。 ・ どのような状況においても、相手の様子や気持ちを考えて接することが大切であることを伝える。 |
| 自分が困ったときに相談できる人は誰か考えよう。 | |
| 3 自分が困ったときに頼れる人について考える。 ・ ワークシートの自分が頼りにできそうな人に○を付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導し、丸を付けることができない児童には、教員が寄り添う姿勢を示し、教師を頼ってほしいことを伝える。 ・ また、児童の環境を想起し、頼れる人を助言して、児童が明るい気持ちで終末を迎えることができるように配慮する。 |
| 4 ふり返りを書き、自分には頼れる存在があることを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを集め、児童を取り巻く環境を把握するとともに、前向きなコメントを返す。 |

5 参考

- ・ 「児童の権利に関する条約」1990年9月2日発効
- ・ 日本ユニセフ協会「子どもの権利条約カードブック」

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/siryu/pdf/cardbook.pdf?210831>

6 資料

- ・ ワークシート (自由記述欄)